

第3回江別市部活動の在り方検討委員会 議事録(要点筆記)

1 日 時 令和6年3月21日(木) 15時30分から 16 時03分まで

2 場 所 江別市教育庁舎 大会議室

3 出席委員 委 員 長 永谷 稔

副委員長 信定 学

委 員 和田 啓司

委 員 小沢 香菜子

委 員 古川 孝行

委 員 横山 聡

委 員 佐藤 ひとみ

4 事 務 局 学校教育課長 稲田 征己

生涯学習課生涯学習係主査（文化振興担当） 朝倉 麻沙美

スポーツ課スポーツ係長 井上 滋

学校教育課教職員係長 小原 知紘

学校教育課学校教育係主任 新道 勇太

5 傍 聴 者 2名

	内 容
事務局 (稲田課長)	ただいまから、第3回江別市部活動の在り方検討委員会を開催いたします。 議事に入ります前に、配付資料のご確認をさせていただきます。 ・次第が表紙になっている会議資料 1部 をお配りしております。 不足等が無ければ、以降の議事につきましては、要綱に従い、委員長に進行をお願いいたします。
永谷委員長	次第3(1)部活動の在り方検討に係るワークショップの実施結果について事務局より説明願います。
事務局 (新道主任)	それでは、部活動の在り方検討に係るワークショップの開催結果について、ご説明いたします。 まず、1.実施概要について、 (1)開催目的としては、 ①部活動の地域移行に係る国の動向等について、教員や保護者、関係団体の方々に対して共有すること。 ②地域連携の柱となる「部活動指導員」「拠点校方式」の導入にあたって、関係者のそれぞれの立場から課題を洗い出してもらうこと。 の2点を目的に開催しました。 (2)実施日時等や(3)参加者については記載のとおりであります が、第2回についてはインフルエンザの流行等により、1回目と比較して参加者数が減ったところでございます。 次に、2.結果概要についてですが、 結果概要については、第1回、第2回ともにグループワークで出された意見やアンケート結果をもとに記載しております。 (1)第1回ワークショップにおける意見・課題等ではありますが、 ①部活動指導員の集め方について 一番多くの意見をいただいた部分であり、どの種目でも共通の課題として、指導者の「専門性や指導力」の確認方法や必要人数の確保、指導員の人選において学校や顧問との面接を実施することで適性を確認するなどといった意見が出たところです。

事務局 (新道主任)	②部活動指導員の待遇・職務について 仮に土日（休日）に指導員を導入した場合、教員は指導には当たらず、指導員のみで運営するのか、部員数が多い部活は複数人で指導するのかという意見や、給与面に係る意見が出たところです。 ③部活動指導員の責任・連携について 主に、部活動指導員の指導中に生徒がけがをした場合や、不適切な指導などがあった際の責任にかかる意見が主なものでした。 そのほかにも、指導員が体調不良の場合などの対応や、教員が指導する平日と指導員が指導する休日における情報の共有方法などについても意見があったところです。 ④保護者の負担について 課題としては、以前実施したアンケート結果と同様に、金銭面や送迎等の移動面に係る意見がありました。 ⑤その他について 今後の地域連携・地域移行に係る全般的な意見があり、記載のとおり、江別市としてどのようなゴールを見据え、どのような方向性で進めていくのかを知りたいといった意見があったところです。 続いて、（２）第２回ワークショップにおける意見・課題等であります。 ①拠点校顧問について 部活動指導員のときにもありましたが、同様に１部活当たりの指導員の人数や拠点校教員への業務のしわ寄せ、部員数が多くなることによって責任が大きくなり、報酬額とのギャップが発生するのではないかといった意見がありました。 ②拠点校の規模・範囲について 移動の面での課題や市内で１校だけにすることで、部員数が増えすぎて、指導が行き届かないといった問題が挙げられました。 そのほか、練習時間等の問題から、公共交通機関等での移動は現実的ではなく、生徒が自転車で移動できる範囲で拠点校を作ることによって、おおむね市内３地区（江別・野幌・大麻）に１校ずつという範囲が望ましいという意見が多かったところです。 ③会場・設備の面について 大人数が練習できる会場がないことや、市の公共施設を優先的に利用
-----------------------	--

事務局 (新道主任)	することができるのかという意見や、屋外部活特有の課題として、雨天時の練習会場の確保といった課題が挙げられました。 ④移動面について、 部活の活動終了時間を考慮すると、移動を伴う平日の拠点校方式は難しいとの意見があり、仮に導入する場合にも、保護者等による送迎の有無によって生徒の選択肢に差が出ないような対応が必要との意見があったところです。 ⑤その他について 主に大会規定にかかる意見があり、団体競技と個人競技による拠点校部活動の出場規定が異なることなどが挙げられたところです。 次に（３）アンケート結果について ①第１回の項目ア、②第２回の項目ウに記載のとおり、それぞれの回に「地域移行や地域連携について理解が深まりましたか？」という問いを行い、おおむね８割から９割程度は「深まった」という回答であり、ワークショップの開催目的であった、関係者の意識の共有という点では効果があったものと認識しております。 そのほか、項目のイは、「将来的な地域移行の際に重要と考える事項はなにか？」という問いであります。割合が多かったものとして、１番が指導者の確保、２番が財源や費用負担の面、３番目が活動場所の確保ということで、人・金・場所という点がやはり大きな課題になってくるものと考えられます。 次に項目エは「それぞれの立場から地域移行・地域連携に関われることはあるか？」という問いを行ったところ、約６割があると回答しており、そのうちの主な内容は記載のとおりでございます。 次の項目オは「部活動指導員の導入希望する（または導入が可能と思う）学校・種目はあるか？」という問いですが、記載のとおり４割弱から「ある」との回答があり、個別に記載のあった内容は記載のとおりであります。 また、項目カにあるとおり、今回のワークショップのような機会があった際に、再度参加してくれるかという点については、半数が「はい」と回答しております。
-----------------------	--

事務局 (新道主任)	最後に項目キについては、第1回に講演いただいた「北海道部活動の在り方検討支援アドバイザーによる講演」の感想について記載しております。 本件についての説明は以上です。
永谷委員長	ただいまの事務局からの説明に、質問や確認したいことなどがあれば、ご発言願います。 【なし】
永谷委員長	次第3【協議事項】(1) 令和6年度部活動指導員配置(案)について事務局より説明願います。
事務局 (小原係長)	令和6年度部活動指導員配置(案)についてご説明いたします。 令和6年度予算は来週の議会で正式に決定予定ではありますが、令和6年度は部活動指導員をモデル事業として導入し、市全体で3名任用する予算を計上しております。 このたび、部活動指導員配置に係り、各校へのアンケート結果や、ワークショップの参加者の方々へのアンケート結果、そして人事異動の状況を加味して、その3名をどの学校のどの部活動に配置するか、事務局案を作成いたしました。 令和6年度に向けた部活動指導員配置については、1(1)のとおり、令和5年9月に学校向けのアンケートを行っております。 第二中がバドミントン・美術、第三中がバドミントン・マンドリン、野幌中がバスケットボール、大麻中がサッカー・合唱・吹奏楽、大麻東中がバレーボール・ソフトテニス、第一中・江陽中・中央中については、令和6年度の人事異動によるため未定、との回答でした。 なお、第二中、野幌中、大麻東中については、人事異動により指導可能な教職員が転入する見込みとなったため、指導者の不在が解消される予定です。 また、先日、2回目のワークショップの際に実施した参加者へのアンケートでは、「部活動指導員の導入を希望する、あるいは導入が可能と思う学校・種目はありますか」という設問を設定し、ご回答いただきました。 (2)に結果を記載しておりますが、「導入を希望する」意味合いで

は、江陽中のソフトテニス部、第三中の運動部、あるいは学校は限定されていませんがバレーボール部、「導入が可能と思う」意味合いでは、関係団体からバスケットボール、土日のみではありますが野球という回答をいただき、他にも公募市民の方から、野球・スラックラインという回答をいただいています。

なお、令和6年度の教職員に係る人事異動の報道発表はまだされておりませんが、現状で人事異動の内示は行われているところです。

その転出・転入者等を加味した上で、3月上旬に各学校へ、令和6年度の部活動指導員配置について再度調査を行っております。

(3)に記載しておりますが、第三中はバドミントン部を希望・候補者はあり、大麻東中は野球部を希望・候補者はあり、中央中・江陽中・大麻中はバスケットボール部希望・中央中のみ候補者あり。なお、大麻中は他にサッカー部、剣道部、テニス部を希望・いずれも候補者なし。第一中は卓球部・バレーボール部を希望・候補者はなしとのことでした。

これらの調査結果を加味して、2 令和6年度部活動指導員配置に係る事務局案を作成したため、ご説明いたします。

①は、江陽中 バスケットボール部です。

部活動のカテゴリとしては、屋内の団体競技、先ほどもお伝えした通り、候補者は現状ではいません。

現状では候補者がいないため、市内の関係団体のご協力や、北海道が運営する人材バンクである、ほっかいどう部活動・地域クラブ活動サポーターバンクを活用して候補者を探す必要があります。

「地域連携」そのもの、地域人材を活用した導入モデルと位置づけます。

②は、第三中 バドミントン部です。

カテゴリとしては、屋内の個人競技です。候補者は、令和6年度から勤務予定の時間講師であり、普段学校にいる先生であることから、生徒にも戸惑いが少なくスムーズに導入可能と考えます。

部活動指導員と顧問との間で、指導に関する引き継ぎが必要となりますが、この場合は平日も対応可能であるため、最も障壁が無いモデルと位置づけます。

③は、大麻東中 野球部です。

カテゴリとしては、屋外の団体競技です。候補者は、令和5年度まで該当校に勤務する野球部の顧問であり、年度末に退職予定の方です。現状指導を受けている、新2・3年生にとっては見知った方による指導となります。

一方で、1年生にとっては普段見ない人による指導であり、直前まで

永谷委員長	学校で勤務していたとはいえ外部の方が指導するため、そのギャップや平日と休日間の指導の引継、学校内のセキュリティ対応等を検証していくモデルと位置づけます。 いずれも、令和6年の5月末から、あるいは人材が見つかり次第部活動指導員として勤務いただく予定です。 詳細な任用の条件については予算の議決後に決定する見込みです。 本件の説明については、以上です。 ただいまの事務局からの説明に、質問や確認したいことなどがあれば、ご発言願います。 【なし】
事務局 (稲田課長)	次第3【協議事項】(2)江別市立中学校における部活動の在り方について(中間報告)、事務局より説明願います。 江別市立中学校における部活動の在り方について(中間報告)ご説明いたします。 1. はじめに スポーツ庁・文化庁によるガイドラインの策定など、本委員会での検討の契機となった部活動を取り巻く環境の変化に触れ、 2. 検討経過 在り方検討委員会、アンケート調査、ワークショップの経過について、時系列に整理しております。 3. 現状と課題 (1)アンケートから見えた現状と課題の主なものとしては、 ①教員に関しては、指導経験の少ない教員が顧問を務めている現状、指導員が年々不足している現状において、部活動指導員の必要性が高まっていることが分かり、②児童生徒及び③保護者に関しては、部活動指導員など外部の人が関わることへの不安が垣間見え、移動手段や金銭的負担への懸念が示されていました。 次に、(2)ワークショップにおいて出された課題の主なものとして、 ①の部活動指導員については、募集方法に関すること、指導員の待遇

や職務に関すること、指導員の責任の範囲や教員との指導の連携に関することが、数多く挙げられていました。

②拠点校方式については、拠点校で指導する顧問への負担の集中についての懸念、拠点校の適正な規模や範囲、雨天時の活動場所の確保も考慮した会場や設備への課題が挙げられていました。また、移動に要する時間を考えると、平日における拠点校方式の導入は難しいとの声も多く聞かれました。

このようなアンケートやワークショップでの結果踏まえ、

4. 今後の検討の進め方としては、こちらの図で示したように、現在の部活動の状況から、部活動指導員、拠点校方式、地域クラブへと段階的に移行していくことが望ましいと考えています。

こうした進め方を踏まえ令和 6 年度から、まずは(1)部活動指導員を休日の部活動から導入します。

①令和 6 年度は、先ほどご協議いただきました、記載の 3 校・3 種目へ導入し、②モデル校での課題の検証、運用方法の確立、ニーズ把握を行った上で、次年度以降の人数・種目の拡大を図って行きたいと考えています。

そのためには、③市内関係団体との連携や道の人材バンクの活用、また、場合によっては民間企業との連携も視野に入れて検討する必要がある、さらに指導員の導入にあたっては、実際の指導を始める前に、④適切な指導方法についての研修会などを実施することが必要であると考えています。

一方、(2)拠点校方式につきましては、

アンケートやワークショップの結果から、導入に際し解決すべき課題が多数あり、また解決に時間を要することが分かりました。

そのため令和 6 年度は、先進事例の研究など、継続して検討を行っていくことといたします。

次に、(3)地域移行につきましては、

地域クラブ等、運営主体の確保・新規設立なども視野に、引き続き検討を重ね、地域主体の活動への支援・協力体制の構築を目指します。

また、その際には関係者の橋渡し役となるコーディネーターの配置についても検討して行きます。

そして、最後(4)在り方検討委員会におかれましては、

引き続き検討を重ねていただき、令和 6 年度末に最終報告をまとめる

	ことを目途に、来年度もご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。 以上、中間報告につきましては、こちらの 4 ページを本文とし、別冊のアンケート調査結果及び別紙ワークショップ開催結果を資料として編集いたします。
永谷委員長	ただいまの事務局からの説明に、質問や確認したいことなどがあれば、ご発言願います。
古川委員	部活動指導員の導入に際して、一部人材バンク等の活用による導入を検討しているとのことですが、他市などで人材バンクを活用した事例などはあるのでしょうか？ また、部活動指導員となると引率の話などにもなり、資格の保有の有無の問題も出てくると考えられますが、そのあたりはクリアすることはできるのでしょうか？
事務局 (小原係長)	石狩管内での話にはなりますが、現状では、北海道の人材バンクを活用して導入したという事例は確認できておりません。 また、人材バンクの登録については、資格の有無に関わらず登録は可能であり、資格要件のほかに、どの地域で活動可能で、どの種目を指導できるのか、という内容での登録となっています。 そのため、候補者の中から資格の有無でスクリーニングすることも可能ではありますので、選定の際の参考にしたいと考えています。
永谷委員長	今後の地域移行に向けて部活動コーディネーターの導入についても検討していくとのことですが、雇用形態はどのような形になるのでしょうか？
事務局 (稲田課長)	コーディネーターの役割や仕事の難しさを考えると、ボランティアという形ではなく、教育委員会として有償で雇用をしたいと考えております。 令和6年度予算では、コーディネーターについての予算は確保できておりませんので、令和6年度は導入について検討したいと考えております。
信定副委員長	今後の見通しについて、まずは令和6年度に部活動指導員を3名導入し、令和7年度以降になるかもしれませんが、拠点校方式の導入についても徐々に進めていくことになると思います。 そうした場合、部活動指導員の人数が3名のままでは難しいと思いますので、どの種目であれば拠点校方式を導入していけるのか、それと合わせ

